

御台所の一日

昼八ツ(午後2時)

自由時間
将軍が大奥にやってくる。一緒におやつをいただいたり、雑談を楽しむ。

昼四ツ(午前10時)

朝の総触れ
御中臈らとともに将軍に挨拶。一日のうちで最も豪華な衣裳を着る。

朝五ツ(午前8時)

朝食・準備
髪を合わせつつ朝食後着替え。化粧仕上の鉄漿付・紅挿・眉引は自分です。

七ツ半(午後5時)

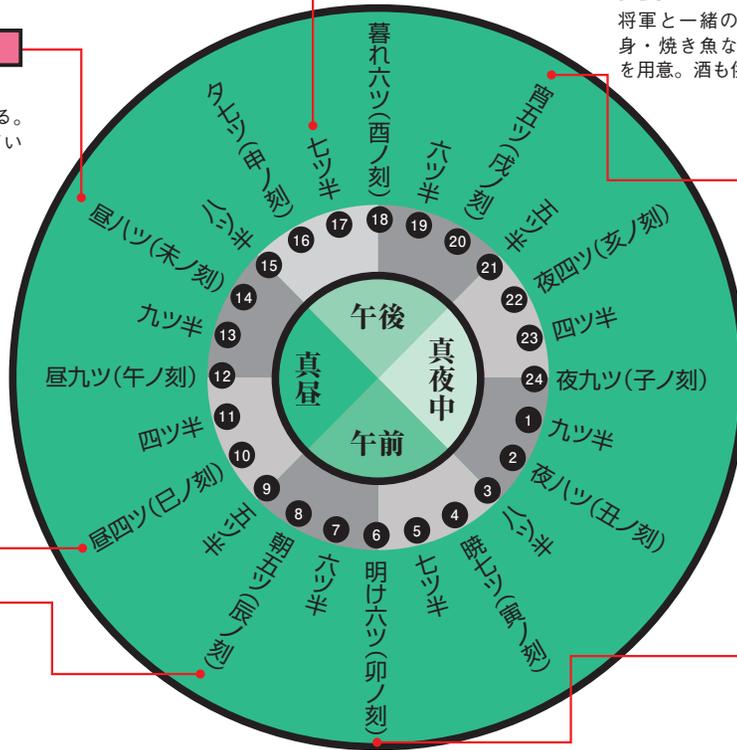
夕食
将軍と一緒に鯛の刺身・焼き魚などの魚料理を用意。酒も供した。

宵五ツ(午後8時)

将軍の奥入り
将軍と御寝の際は「蔦の間」に迎えうつろいしてから寝装束に着替えて床入り。

明け六ツ(午前6時)

起床
起床後にうがいを済ませ入浴。その後「お化粧の間」で化粧をする。



三代将軍家光以降、御台所を宮家や公卿から迎えるようになる。京で

大奥の主・御台所の暮らしぶり

将軍生母となつた側室は九名。正室は一名。将軍の子を生むには、並々ならぬ強運を要したのである。

り不祥事と解釈されたのだろう。将軍生母となつた側室は九名。正室は一名。将軍の子を生むには、並々ならぬ強運を要したのである。

た者突き飛ばしたり裾を踏んで転

た。それが、御台所が将軍と同衾する際は、ふたりきりでしつぽりやれたのである。側室同士では、懐妊し

いれば良かった。最も差がついたのは、将軍との床入りだ。将軍の相方が側室の場合は、髪の中まで調べられ、四人もの御添い寝役に監視されながら交わつた。それが、御台所が将軍と同衾する際は、ふたりきりでしつぽりやれたのである。側室同士では、懐妊し

育つた姫君にとつて、東下りとも言える不本意な興入れだったろう。それでも御台所は、大奥の女性たちの中では別格だ。まず、労働をしなくて良い。二十四時間、人にかし

ずかれ、一日五回にも上るお召し替えは難儀でも、好きな学問をしたり、自由時間には奥女中たちを相手に扇遊びや百人一首などを楽しんで